



教育学部

教授 袴田 和泉さん

Hakamada Izumi

●プロフィール

- 1981年 東京芸術大学大学院修了
- 1982年 ハンガリー国立フランツ・リスト音楽アカデミーに留学。
- 1988年 ドイツ国立フライブルグ音楽大学大学院ソリストコースを最優秀の成績で修了。
- 1991年 日本大学芸術学部非常勤講師、国内外で演奏活動を続ける。
- 1999年 熊本大学教育学部赴任
- 2008年 熊本大学教育学部教授

ピアニストとして音で語りかける。

オーケストラをバックに演奏をするのが夢

戦前に活躍した、童謡歌手を母に持つ袴田さん。「小さい時から歌の絶えることのない毎日でした」。父は家庭の事情で医者になる夢を断念したことから、勉強のよく出来た袴田さんに夢を託していました。5歳でピアノを習い始めますが、「音楽よりも医学を」という父にすぐにピアノを買ってはもらえず、2ヶ月間は一所懸命紙鍵盤で練習したそうです。小学1年生の時に「オーケストラをバックに演奏するピアニストになりたい」と作文に書くくらいピアノを弾くのが好きだった袴田さん。中学時代からは本気でピアニストを目指します。東京都立芸術高等学校ピアノ科から東京芸術大学、同大学院へと進み、ピアノの研鑽を積みますが、「もう少し自分のために勉強しなくちゃ」と、海外に出る準備をします。小学校5年生から近所の牧師館で英語を習っていた袴田さんは、大学在学中にはフランス語とドイツ語を勉強し、海外留学に備えます。

ハンガリー留学でラドシュに学ぶ

大学院修了から1年後の1982年、ハンガリー政府給費留学生としてハンガリー国立フランツ・リスト音楽アカデミーに留学します。何のコネクションもないまま、袴田さんはフェレンツ・ラドシュの門をたたきます。断られても引き下がらず弟子になります。本当に厳しいレッスンだったと振り返ります。

日本でピアノを習っていた時には、先生に言われたとおりに弾かなくてはならなかったため、次第に自分の意見を持たなくなってしまったのだそうです。先生が弾いたとおりに弾けるのに「この曲についてどう感じるのか、それを言ってごらん」と聞くラドシュに答えることができず、自分を根底から覆されました。しかし、ラドシュに師事できことは「大ヒットというよりホームランです」と袴田さん。「ラドシュ先生は真に実力のあるピアニスト、そして正真正銘の芸術家ですから」。

3年後、袴田さんはハンガリーからドイツに渡り1988年国立フライブルグ音楽大学大学院ソリストコース修了。最優秀の成績でドイツ芸術ソリスト国家試験に合格しますが、家庭の事情もありその1年後には日本に帰ることになります。

全国でピアノリサイタルを開催

1990年、帰国した袴田さんは、逆カルチャーショックの中で1年間は仕事にも就けず精神的に辛い日々を送りました。熊本大学に赴任されたのは1999年。同時に日本大学芸術学部非常勤講師としても後進の指導にあたりました。

1990年の帰国後も引き続き毎年、ドイツ、スイス、東京などでコンサートを続けていますが、2000年から2005年にかけて『スクリャーピンの人生と音楽を追って』と題し全10曲のピアノ・ソナタをメインにしたリサイタル・シリーズ全6回を成功させました。熊本でも2006年ピアノリサイタルに続き2008年9月にはチェロの小澤洋介氏、バイオリンの三戸素子氏とともに袴田和泉ピアノトリオ名曲の夕べを開催しました。

「私はなによりもまずピアニストなので、音でちゃんと語りかけていきたい。どんなことがあっても弾き続けたい」と語ります。

学生たちには「何かひとつの事を極めて」と思う日々です。「自分に与えられた使命を見出し、そこでたゆまぬ努力を続け、人間として深みのある人になって欲しいです」。



室内楽の師のボトヴァイ先生と